

## 横浜市におけるヤングケアラーに関する 実態把握調査結果について

横浜市におけるヤングケアラー<sup>\*</sup>の生活状況や世話をしていることによる生活への影響、支援ニーズ等を把握し、適切な支援策を検討するため、実態調査を実施しました。

(※)法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。

### 1 調査概要

**調査目的** :横浜市におけるヤングケアラーの生活状況や世話をしていることによる生活への影響、支援ニーズ等を把握し、適切な支援策を検討する。

**調査対象** :横浜市の公立学校に通う小学5年生、中学2年生、高校2年生(合計約7万5千人)

**調査内容**

学校生活等に関すること
出席状況、部活動への参加状況、授業への意欲、悩み 等
家庭や家族に関すること
世話をしている家族の有無・状況・頻度、世話をしていることによる影響、周りの大人にしてもらいたいこと 等
ヤングケアラーについて
ヤングケアラーという言葉の認知度、自分がヤングケアラーにあてはまると思うか 等

**調査手法** :各学校を通じ、生徒本人に調査概要や調査回答フォームの二次元コード等を記載した用紙を配布し、各生徒は Web 上で回答(回答は任意)。

**調査期間** :令和4年6月17日~7月22日

**回答者数(率)**:45,490人(回答率:約60.0%)

小学5年生:22,485人(回答率:約75.0%)
中学2年生:19,133人(回答率:約73.6%)
高校2年生:3,872人(回答率:約20.4%)

### 2 結果概要 (別紙「横浜市におけるヤングケアラーに関する実態把握調査結果について」を参照)

#### (1)主な調査結果

##### ヤングケアラーの認知度

・ヤングケアラーという言葉を知ったことがある子どもは、3~4割程度となっています。

### 家族のお世話をしている子どもの割合

- ・小学5年生の **20.3%**、中学2年生の **13.5%**、高校2年生の **5.4%**が家族の中に世話をしている人が「いる」と回答しています。
- ・世話をしている家族が「いる」と回答した子どものうち、自分がヤングケアラーだと思う子どもの割合は、小学5年生で **8.6%\***、中学2年生の **6.5%\***、高校2年生の **11.0%\***となっています。
- (※)回答者全体では、小学5年生の約 **1.7%**、中学2年生の約 **0.9%**、高校2年生の約 **0.6%**

### 家族の世話をしており、自分がヤングケアラーだと思う子どもの状況

- <世話をしている相手>
  - 「きょうだい」が最も多く、次いで「父母」「祖父母」となっています。
- <世話をしている理由>
  - 「きょうだいが幼い」が最も多く、次いで「仕事などで保護者の帰りが遅い」となっています。
- <世話の内容>
  - 「見守り」や「家事」、「話を聞く」など様々な状況が見られました。
- <世話をしていることによる影響>
  - 子どもの約4割が、「自分の時間が取れない」「宿題など勉強する時間がない」などの世話による影響を受けています。
- <世話をしていることについての相談経験>
  - 「誰かに相談するほどの悩みではない」「誰に相談するのがよいかわからないから」等の理由で、小学生及び中学生の約6割、高校生の約4割が相談したことが「ない」と回答しています。
- <周りの大人にしてもらいたいこと>
  - 子どもの約半数が、周囲の大人に対し、「自分のことについて話をきいてほしい」「勉強を教えてください」など、してもらいたいことが「ある」と回答しています。

## (2)調査結果から見てきたもの・今後の取組の方向性

### ① 家庭が抱える様々な課題

幼いきょうだいや高齢の祖父母、障害のある家族など、世話を担う子どもが直面している家庭の課題は様々です。子どもや家庭の状況に応じ、適切な福祉サービス等につなげていけるよう、**学校、区役所、関係機関の体制・連携強化**により、支援を進めていきます。

### ② 潜在化する傾向

相談経験がない子どもが多く見られ、社会的認知度も高いとは言えない状況です。**子ども本人や周囲の大人に対する広報・啓発を更に推進**し、ヤングケアラーの正しい理解を深め、子どもが声を上げやすくするとともに、地域全体で子どもを見守り、支える環境づくりを進めます。

### ③ 生活への影響と周りの大人に望むこと

勉強や睡眠、部活動等の時間が十分に取れないといった影響が見られ、周囲の大人に対しては、お世話や将来のことについての相談支援や、学習面のサポートなどが求められています。子どもたちが自分の時間を確保できるよう、**身体的な負担を軽減するとともに、悩み相談等の心理的なサポートを行う取組**を推進していきます。

なお、調査結果の詳細については、横浜市ホームページをご覧ください。

URL:<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kosodate-sogo/lifestage/youngcarer/default20221128.html>

#### お問合せ先

こども青少年局企画調整課長

田口 香苗 Tel 045- 671-4280